

「化粧品専門店の未来はあるか」

第13回 「NCC若手経営者の会」

次代の経営者育成に向け 高瀬体制が始動

「NCC若手経営者の会」(以下、NCC)は2024年3月5～6日の二日間、全体会議を開き、第9ステージに突入した。新会長は、「星の国」(北海道)の高瀬直樹社長である。成果の明確化と育成積み上げの仕組み化、NCCに対する積極的な参加を今後の課題に挙げている。その根底にすべきは「理念経営」であるとし、高瀬体制の目玉プロジェクトとして「経営者塾」を立ち上げた。理念経営は高瀬体制以後も重要テーマになる見込みで、NCCは次の時代にシフトしている。

NCCは化粧品専門店における



新会長の
高瀬直樹氏
(星の国)

理念経営について明確に定義している。理念とは「化粧品専門店の社会的地位向上」を目指すこと。その実現への戦略としてNCCの施策があり、戦術として資生堂と

の協働がある。理念、戦略、戦術

まで「一貫性のある会として運営し、結果を示す」と高瀬会長は意気込む。

だからこそ、重要になるのは組織の一体感だろう。以前から、NCCの悩みは役員とそれ以外の会員との温度差である。組織は、優秀な上位が2割、平均的な中位が6割、下位のグループが2割に分かれる、いわゆる「2、6、2」の法則になると言われているが、NCCも例外ではない。高瀬体制ではNCC会員一人一人の自覚を問うことで、化粧品専門店業界のトップランナーになるために主体的に動くことを強く求める。NCCを通じて出会った専門店経営者から学びを得て、自社の成長戦略を確立した高瀬会長の個性が色濃く出ている。

この高瀬体制の方向性に対して、全体会議で登壇した資生堂の

藤原憲太郎社長COOは、社員に求めている自己革新をテーマに、以下のように語った

「自らを変えていかなければ改革は進まず、成長もできない。しっかりとしたビジョンを掲げるとともに、自分の「クセ」を知ることが大事である。それは自分の中にある弱みであり、経営判断に大きく影響する。クセを理解することは、新しいチャレンジ、変革をするための一つの解決策になり得る。私が強く掲げるのは、次世代に負の遺産を残さないことだ。自分の世代でできるだけ変えられるものは変え、次世代が新しいことにチャレンジできるようにしたい。これが経営モットーである」

資生堂ジャパンは2月29日、「持続的な成長」「稼げる基盤構築」「人財変革」の三本柱で、経営を変革する新プランとして「ミライシフトNIPPON2025」を発表。その基盤になるのが、自己革新でできる社員である。

具体的には「好奇心を持ち、生活者の価値観やトレンドを捉え、新しい価値を創造する力」「得意先